



学校便り

昭和公立日見中学校

令和4年3月15日
第21号(卒業式編)
文責 校長 平野

～ 卒業式 ～

【 送ることば 】

いよいよ卒業式を迎えました。

校長式辞では、コロナで制限が多かったからこそ、漫然と過ごすなかでは決して得られない力を手に入れることができたことを伝えるために以下のようなことを話しました。また、送る言葉・別れの言葉は3年間を振り返れるよう全文掲載します。

【 校長式辞（一部） 】

「徳川家康がまだ幼く竹千代と呼ばれていた頃、駿河の人質となっていた時のことです。

領主の今川義元は家来を呼んで竹千代に『むごい教育』をしりと命令しました。早速家来は、粗末な食事を与え一日中掃除や庭仕事などの雑用をさせられたそうです。

その様子を聞いた義元は大変怒り家来をしっかりとつけました。それからはおいしい物を食べさせ仕事をさせず遊ばせたそうです。

義元の考えた「むごい教育」とは、何でも至れり尽くせりで欲しい物を欲しいだけ与え何もさせないことです。そうすることで、将来の隣国三河の領主をだめにして支配するのが目的でした。

もちろん、家康はそのことに負けず質素儉約を旨として、後に徳川300年の歴史を作り上げたのは歴史で習った通りです。」

私は、何でも豊かな今の時代はまさにこの「むごい教育」になりやすいことを大変心配していました。しかし、この3年間に不便な中で過ごした日々があったからこそ、努力と工夫を重ね人より強い力を身に付けることができましたのだと思います。

今後はその力をさらに磨き、世のため人のために活躍することを期待しています。



厳しい冬の寒さも和らぎ、植物たちの新たな芽吹きに春の訪れを感じるこの良き日。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。



中学校生活3年間を終え、自信に満ち溢れている皆さんの姿を見て私達も先輩方と過ごしたたくさん日々を思い起こしています。

2年前、先輩たちと初めて出会った入学式。慣れない制服と初めての中学校生活で不安でいっぱいだった私達を、先輩方は温かく迎えて下さいました。その優しさにとどれだけ安心したことでしょう。

新型コロナウイルスがなかなか収まらず、たくさんの行事が中止になりました。しかし、先輩方の顔は笑顔で、私達もその笑顔に元気をもらいました。

「日進輝歩」をスローガンに挑んだ体育大会。2、3年生合同で取り組んだ「ヨッシャこい」は、3年生のダンスリーダーの指導のもとに厳しい練習を重ねました。うまく踊れないところはできるまで何度も何度もその練習に付き合ってもらいました。昼休みに校庭や体育館で練習したことは今では良い思い出です。そのおかげで本番では全員で協力して成功することができました。選抜リレーも印象に残る競技です。全員で勝ちに向かって思いっきり走っていた姿、真剣なまなざしは今でも目に焼き付いています。

日常の学校生活にもたくさんの思い出があります。昼休みのサッカーは、日見中の名物といってよいほどみんなの楽しみのひとつです。学年の壁を越えて、合同で試合をしたり、勝敗なく楽しむことができたりと、本当に楽しい昼休みでした。今でこそ笑って振り返ることができますが、コートでの取り合いで、毎日もめていたことがありました。これもまた今はよき思い出です。

部活動では、先輩たちが優しく接して下さったことへの感謝の声がどの部からも届いています。難しい技を習得するためのアドバイスや、「ファイト」、「もう少し!」などの励ましなど、試合はもちろんのこと、放課後の練習の思い出が私たち後輩の胸に刻まれています。

そして、昨年最後の生徒集会。集会自体がなかなか開けない状況の中で、生徒会執行部の先輩方を中心にして、本当に楽しいひとときを作ってもらいました。先生方も巻き込んでのダジャレ勝負、けん玉大会など、久しぶりに全校生徒で笑って盛り上がりましたね。

コロナ禍で様々な制限だらけの2年間でしたが、その中で何ができるか、何を精一杯楽しむかを前向きな先輩たちの姿勢に教えていただいたような気がしています。先輩たちと過ごした日々はあっという間に過ぎましたが、何物にも代えがたい宝物となりました。

いよいよお別れの時が来ました。それぞれの道に羽ばたいていける先輩たちが胸を張って日見中の卒業生だと言えるように、私たち在校生は、築かれた伝統をしっかりと受け継ぎ、さらに進化させていきます。そのために、生徒会役員を中心として盛り上げていきます。

幼いころから慣れ親しんできた日見の町や仲間と離れ、新しい生活に一步踏み出すのは不安もあると思います。その時は、この学び舎で身につけたことや仲間との思い出を胸に、選んだ道に自信を持って進んでください。私たちは先輩方の夢が叶うことを精一杯、応援しています。

在校生代表 松尾彩希

【 別れの言葉 】

冬の寒さが和らぎ、柔らかな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日はコロナ禍であってもこのような卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。

今日という日を迎え、私は今、時の流れはなんと早いものなのかと身に染みて感じています。思い起こすと3年前、着慣れない制服に身を包み、期待と不安を胸に、小学校とあまり変わらないメンバーと共に日見中学校に入学しました。

仲間と支えあい、切磋琢磨し、ぶつかり合ってきた部活動。最後の中総体では、全員が一生懸命戦い、今までの思いをすべて出し切ることができました。その後のミーティングでは自分たちの心の中にある様々な思いに、涙を流す場面もありました。

修学旅行は、楽しみだったUSJに行けなくなり複雑な気持ちでした。しかし、行き慣れた県内の観光スポットも友達といることで心躍るものになりました。就寝時間が過ぎてモソモソと夜遅くまで話していたことは秘密のことです。

たくさんの行事の中でも一番の思い出は体育大会です。クラスを赤と青の半分に分けてクラス内で戦うのは正直大丈夫かなと不安になりましたが、勝負ごとになると本気になるのが私たちのクラスです。赤組も青組も良く作戦を立て、同じチーム同士腹の底から声を出し応援しました。特に中3の体育大会は今までで一番の体育大会でした。

日々の些細な出来事も大切な思い出です。中1、中2のころの給食の時、担任の先生の掛け声が独特で面白かったこと。授業で盛り上がった時、盛り上がりすぎて先生に怒られたこと。毎日の休み時間、男子は全力でサッカーをしたり、女子は大声をあげて笑いあったこと。一つひとつのことが鮮明に頭に残っており、3年もたったことが信じられません。

そんな私たちの学校生活を支え、導いて下さった先生たちの存在はありがたいものでした。授業や部活動だけでなく、日々のあらゆる場面でお世話になりました。進路については親身になって相談に乗って下さった3年生の先生方。面接練習を何回もしてくださったり、社会貢献について教えてくださった校長先生。たくさんの先生方、本当にありがとうございました。

在校生の皆さん。先程は心のこもった祝辞をありがとうございました。皆さんには、部活動や生徒会活動、体育大会などの行事等でたくさん支えてもらいました。次は、皆さんが日見中を引っ張る番です。生徒会役員を中心に、生徒全員で力を合わせ、何かを築き、そしてまた次の世代へとたくさんのことを残してあげてください。3年間は、私が今感じているようにあっという間に過ぎるものです。

だから、今しかできないことに全力を注いで頑張ってください。

そして、今日共に卒業する3年1組の皆さん。9年間、長い人は幼稚園の頃からずっと一緒に、これから別れることに実感が湧きません。時には、ずっと一緒に居すぎてぶつかったり、嫌になることもありました。しかし、自分のことをよく分かってくれていて、いるだけで元気にさせてくれて、些細なことで大爆笑させてくれる友達が私は好きです。楽しいことばかりではなく、辛いことや大変なことも、みんなの明るさや優しさで、お互い助け合って乗り越えてきました。今まで本当にありがとう。

最後に、いつも私たちの一番近くにいてくれた家族。時には、厳しく叱られることもありましたが辛いときはそばにいて話を聞いてくれました。試合や受験の時は、全力で応援して、背中を押してくれました。たまにわがままを言ったり、自分のことしか考えられず、なかなか家族を思った行動ができずにごめんなさい。これからは少しずつ恩返しができるように頑張ります。

今までの15年間、たくさん支えていただき本当にありがとうございました。

私たちはこれから、一人ひとりが違う道に進んでいきます。言葉と行動に責任が伴い、自分の歩む道は自分で作っていかねければなりません。壁にぶつかって、立ち止まっていたら、今までのように背中をそっと押してくれると嬉しいです。

今まで支えてくださったすべての人に感謝を申し上げますとともに、私たちはこれからも強くたくましく生き、自分が持つ力をさらに高め、社会に貢献していくことを誓い、答辞とさせていただきます。

